

令和4年度第1回川崎市政策評価審査委員会 議事録

日 時 令和4年6月30日(木) 午前10時00分～午後0時16分

場 所 川崎市役所第3庁舎5階 企画調整課会議室

出席者 委員 川崎委員長、松井副委員長、岩崎委員、久野委員、高尾委員、田島委員、星川委員
三田委員、米林委員
市側 中川総務企画局長
宮崎総務企画局都市政策部長
山井総務企画局都市政策部企画調整課長
岸総務企画局都市政策部企画調整課担当課長
野本総務企画局都市政策部企画調整課担当課長
加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長
吉永総務企画局行政改革マネジメント推進室担当課長
秋廣財政局財政部財政課担当課長

1 議 題

- (1) 部会における審議結果の報告について
- (2) 川崎市総合計画第2期実施計画総活評価の結果概要について
- (3) 審議結果の総活について

2 その他

公開及び非公開の別 公開

傍聴者 1名

議事

加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

大変お待たせいたしました。まだ出席者は揃っておりませんが、定刻を過ぎてございますので、ただいまから令和4年度第1回川崎市政策評価審査委員会を開催させていただきます。

総務企画局都市政策部企画調整課の加島でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、本日の委員会につきましては、一部テレビ会議により実施しておりまして、松井委員、三田委員におかれましては、テレビ会議によりご出席をいただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

次に、本日の委員会は公開とさせていただきますこと、傍聴を許可しておりますこと、また、議事録作成のために会議中に録音することにつきまして、あらかじめご了承くださいと存じます。

あわせて、本日の会議は「要約方式」にて作成することとしておりまして、確認者を各委員の皆様にご指定させていただきますことと存じます。また、会議録は発言者が分かるように委員名を記載するものとし、文書開示請求等があった場合には、委員名は原則開示されることとなりますので、これについてもご了承くださいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、資料の確認をさせていただきます。上から順番に、次第、名簿、座席表、資料1

「部会における審議結果」、資料2「第2期実施計画総括評価結果概要（案）」、資料3「施策・成果指標の達成状況等一覧」、資料4「施策の達成状況に係る補足説明資料」、資料5「第1期策定時等を下回った成果指標の原因分析等について」、資料6「市民アンケート調査結果概要」、資料7「施策評価の審議結果（案）」、資料8「第2期川崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について」でございます。また、参考資料の1から3及び別添資料として第2期実施計画の冊子を机上に置いております。不足はございませんでしょうか。

続きまして、本日の流れでございますが、まず、各部会でご審議いただいた評価結果をご報告させていただきたいと思っております。続いて、それらを踏まえて委員会としての総括評価の取りまとめ等をお願いしたいと思っております。

委員会の終了時刻は、開始が少し遅れましたので、12時を予定しております。よろしくお願いいたします。

それでは、次第に従いまして、議事に入らせていただきたいと思います。

ここからは、委員長に議事進行をお願いしたいと思います。川崎委員長、よろしくお願いいたします。

川崎委員長

それでは、早速審議に入りたいと思います。

はじめに、議題（1）「部会における審議結果の報告」でございますが、委員会で選定した12施策について、各部会で重点的にご審議をいただき、資料1のとおり「内部評価結果の妥当性」及び「附帯意見」を取りまとめていただきました。

その内容につきまして、事務局から報告していただき、その後、各部会長から補足等があればお願いしたいと思います。

なお、説明される方におきましても、議事録の関係で挙手をさせていただき、私から指名をさせていただきますので、ご所属とお名前をおっしゃっていただき、説明をお願いしたいと思います。

それでは、事務局から審議結果の報告をお願いいたします。

加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

（資料1の内容に沿って説明）

川崎委員長

ありがとうございます。

それでは、各部会長から補足意見等についてご発言をお願いしたいと思います。第1部会の岩崎部会長からお願いしたいと思います。

岩崎委員

補足というよりは、全体を整理してお話したいと思います。

まず第1部会としては、事業内容自体の評価とともに、成果指標が適切に設定され、妥当であるかということに注目して議論いたしました。

審議対象の施策1及び2は、介護や生活保護など福祉の観点、施策3及び4は、育児・教育になっております。

福祉に関しては、健幸福寿プロジェクトと生活自立・仕事相談センター（だいJOBセンター）という、二つの大きな柱がありまして、いずれも良い取組をされていますが、とりわけ健幸福寿プロジェクトに関しては、国の施策が、いわゆる要介護度が増えると予算措置を増やすといったマイナスのインセンティブであ

ったものを、川崎市独自で、現状の介護度が改善された場合には評価するというプラスのインセンティブを与えており、この制度自体が国に影響しているという意味では、とても誇るべき取組だと委員一同、高く評価しました。

一方で、附帯意見にも書かれておりますように、それゆえに改善することに焦点が当てられて、改善しやすい利用者だけに偏るといった弊害の危険性も、委員から指摘されたところです。

同様に、生活自立・仕事相談センターの支援に関しては、やはりプラスの行動の評価にインセンティブを与えるという意味では、現在、指標として成立していないのですが、生活保護から経済的自立をしたことへの指標化が重要だということでした。

施策3及び4については、子ども・学校教育は成果指標をつくるのが難しいということで、指標の適切さについての議論が主となっていました。

乳幼児健診の未受診者や育児不安に関して、あるいは学校教育の労働環境等について、適切な指標が設定されているのか、特に今回取り上げられた、児童生徒の主観的な評価によって全てを評価しているといった問題点などが指摘されました。

川崎委員長

ありがとうございます。第2部会は田島部会長からお願いいたします。

田島委員

第2部会については、まちづくりに関連する施策についての審議でしたので、当然、その空間的な、どういう場所であるかということに非常に依存する施策ばかりでした。

その中で、施策1「防災まちづくり」と、施策3「多摩丘陵の保全」については、川崎市の中でも、特にターゲットとする地域が定められており、その地域についての評価という形になっておりまして、それに対して、主に廃棄物政策である施策2「循環型のまちをめざした取組」と、自転車やバスによる交通施策である施策4「身近な交通環境」については、全市を対象とした施策ということで、少々異なる部分がありました。

その中で、川崎市は南部の平地で密集した地域と、北部の丘陵部、特に最北部は農振農用地などもあるような地域ですので、そういった全市を通じた施策の評価の仕方については、これで全体的なものが十分、指標に反映されているのかどうかといった議論もございました。

それから、施策1及び3の特定の地域を対象とした施策については、特に防災まちづくりについて、特に問題が多いところを対象にした施策ですので、全体の施策の今後の方向性については、どのように見ていくのかということも議論になりました。

施策の達成状況については、内部評価もA、Bと高めの評価になっており、現況、設定されている指標からは、委員の皆さんも特に問題があるという意見はなかったのですが、指標の設定の仕方等については、今後も検討を進めていくべきであるといった意見がございました。

川崎委員長

ありがとうございます。引き続き、第3部会は久野部会長からお願いいたします。

久野委員

第3部会では、4つの施策について、評価の設定の仕方がどうなのだろうか、実際に評価した結果、AからDまでありますが、それが評価の設定の仕方によって、A、B、C、Dとなっていることが妥当と判断できるかどうか、こういう観点から見まして、大変興味深い審議でございました。

一つ目は、科学技術を活かした研究開発基盤の強化ですが、成果指標は、特許保有累計件数、ナノ医療イノベーションセンターの入居率、新しくできたコンベンションホールの稼働率を設定して評価をしていますが、まず、特許保有累計件数や、ナノ医療イノベーションセンターの入居率は、達成度 a で大変結構でございます。達成度 c のコンベンションホールの稼働率は、かなり大人数を収容できるホールの稼働率で目標設定をしたために、達成度 c という状況になっています。やはり小さな学術会議や講演会などでは、小規模な会議室を借りて使うことがあるため、大きなホールだけでなく、全体的な稼働率がどうなのかというところをもう少し評価軸に入れたらどうかという目線でした。

いずれにしても、科学技術を活かしていくという川崎市の施策に伴う環境整備という意味では、トータル的に見るとかなり頑張っており、委員の皆さんが審査の結果としてそういう感想を抱いたところです。

次に、人材を活かすしくみづくりですが、全体評価としては C であり、就業支援事業による年間就職決定者数、かわさきマイスターのイベント出展等の活動回数の 2 つの指標のいずれも達成度が c ですが、指標の設定の仕方というよりは、なぜ達成できなかったのか、その原因についてもいろいろ意見交換をされました。就職したけれども雇用環境がどうなのだろうということや、辞めてしまうことや、コロナの影響等もあり、現在の状況が必ずしも適切な環境になりにくいということもありますが、この様な就業環境というところも今後検討していったらどうなのかという意見が出ました。

また、かわさきマイスター制度については、この様な制度ができる地域はあまりないため、後継者不足という実情はありますが、引き続き後継者を積極的に育てる取組を進めたらどうかというご意見が出されました。

次に、市民の文化芸術活動の振興ですが、これは主要文化施設の入場者数が達成度 d で、あまりよい達成度ではなかったのですが、コロナ禍で、なかなか来場者数を維持することが難しい状況があったのですが、来館者数の変化をしっかりと検証して、より詳細な要因分析を行うことが、目標達成に向けた方法にもつながるため、もう少し今後の取組を整理して進めたらどうかというところにつながっております。

また、年 1 回以上文化芸術活動をする人の割合も達成度が c ですが、これは忙しい年代をターゲットにしているところもあり、もう少し若い世代を伸ばしていくという視点で、若い世代の取組を重点的に支援する、あるいは評価するといった事項を今後つくっていくと良いのではないかとご意見も出されております。

最後に、共に支え合う地域づくりに向けた区役所の機能の強化ですが、これは大変評価が良く、成果指標も両方 a ですが、本当にそうでしょうかという意見が出ました。なぜならば、区役所利用者のサービス満足度が a ですが、調査対象人数が本当に妥当なのかや、調査手法が聞き取り調査であることから、ある一定の方々にだけ聞いた結果 a になったため、本当のところはどうなのかということもあり、今回はこの手法で a となったため、評価は A で妥当ですが、今後、調査手法をもう少し考えていただきたいということでした。

もう一つ、マイナンバーカード交付率ですが、この指標も a です。これについては、やはりこれを指標にすると、達成状況が国の施策に左右されてしまうということで、これも適切かどうかというご意見が出ましたが、当時はデータで様々な分析・解析をして、さらに一人ひとりのデジタル化に対応した区役所サービスを市民がどう感じるか、そういうことだとすれば、当面はマイナンバーカード交付率も一つの手法として、今回の場合は妥当としてもいいだろうけれども、今後はマイナンバーカードだけでなく、もう少し多様な観点から区役所の機能の強化を考えて指標を設定していただきたいという意見も出されました。

以上から、かなり評価指標として a から d まで、データの分析結果としては多様な結果が出ましたが、総括的に言えば、これからもどういった指標を考えたら良いかをさらに具体的に検討することを前提として、今回は全て妥当と判断した次第でございます。

川崎委員長

詳細なご説明をありがとうございました。

ただいまご報告いただいた内容と、その他、部会の開催を通じて確認しておきたいことなどがございましたら、ご発言をお願いいたします。

なお、ご発言される場合、挙手していただき、私から指名させていただきますので、お名前をおっしゃってからご発言ください。

オンライン参加の方々、音声を発していただいて構いません。指名は私が行いますので、おっしゃっていただければと思います。いかがでしょうか。

なお、本件は当委員会の報告という形で最終的には取りまとめいたしますので、他の部会の結果についても確認をしたい点があればご発言いただければと思います。

星川委員

今、委員長から確認点があればということですが、むしろ強調という意味で、部長からもご丁寧な説明をいただいたのですが、特に最後の11ページの施策4の区役所利用者のサービス満足度について、この評価はaではなくて「えーっ」なんですね。こんな高い数字はあり得ないでしょう。私は市民委員ですから、直接、区役所や支所の窓口で接しています。実は前回も部会の後にある支所で、私が関係するトラブルがありました。それは職員の方が研修生という名札をつけていますので不慣れなのは承知なのですが、指示ミスをして、その場所で処理できることをわざわざ違う市税事務所まで行かせて、行かせる必要もなかったのですが、それに気づいた後、ではこちらで手続きをしますと言いながら、また番号札を持って40～50分並んでくださいと、そういうようなことを言う。問題は、その指示をした人間にもかかわらず、すぐ手続きをしますというなら分かりますが、そういうことが実際に、市民に寄り添うなどそういった言葉は色々なところに出てくるのですが、とんでもないということが実態としてあります。したがって、この99%は、私も町内会で皆さんに聞いたところ本当に「えーっ」なんですよ。とてもaで納得する人なんて一人もいませんでした。したがって、ここで附帯意見にも書いてありますが、やはり最適な調査方法をぜひ模索していただいて、指標の立て方を間違えると思いがけない数字で表れてしまうという非常に代表的な例ではないかという気がしておりますので、ちょっと確認ではなくて、強調といいますか、一言ここは言っておきたいということです。

川崎委員長

承知いたしました。ありがとうございます。

今の点につきまして、この利用者のサービス満足度の調査については市民の方々の実感とずれがあるということですので、そこについては担当部署と調整をしていただいて、アップデートしていただければと思います。

加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

その意見につきましては、附帯意見の1ポツ目の最後の部分で、「最適な調査方法等となるよう検証及び改善を望みます」としており、他については、2ポツ目の最後の部分「検討していくことを望みます」という表現なのですが、ここについては「改善を望みます」という表現で強調させていただいております。

星川委員

そうですか。ありがとうございます。

久野委員

そうですね、私の強調の仕方がちょっと少なかった。

部会の際もそういう方向をしっかりと行っていただきたいと思います。

川崎委員長

承知しました。ありがとうございました。そういうことでございますので、市役所も対応していただくということでございます。

ほか、ございますでしょうか。特になければ、次の議題に移りたいと思います。

議題2「川崎市総合計画第2期実施計画総括評価の結果概要」になります。12の施策について先ほど委員会としての確認をいたしましたが、それ以外の全ての施策について総括することが、この委員会の役割となっております。三つ目の議題の審議結果の総括とも関係してくる部分でございますが、まずは第2期実施計画の総括評価の全体につきまして、事務局から説明をいただいて、その内容について質疑を行いたいと思います。

それでは、事務局より、資料2から6まで一括でご説明をお願いいたします。

事務局

(資料2～6の内容に沿って説明)

川崎委員長

ありがとうございます。

ただいまの事務局の説明に対しまして、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。挙手または音声にて、ご発言の要求をお願いいたします。

高尾委員

詳細なご説明、ありがとうございました。

最後の市民アンケートの結果ですけれども、まずこれは29項目のみの調査ですか。例えば総合的な満足度などは測っていないのでしょうか。

加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

指標として載っている29項目についてのみ実施しております。

高尾委員

例えば、その他に生活の満足度や市政に対する満足度全般などがあれば、個別の項目が総合的な満足度に対してどのように影響しているのかというようなことも分析できるのではないかと思いましたが、そういった項目は今回のアンケートでは取っていないということですか。

加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

そういうことです。

高尾委員

それからもう一つは、今回のアンケートで増加傾向が見られた項目がありますが、そういうものと客観的に指標が上がっているもの、例えばごみについては客観的なデータが出るとは思いますが、そういうものとのくらい関係しているのか、そういう分析はなされているのでしょうか。

加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

直接的な原因分析は行っていませんが、その項目の配下に位置付けられている個別の施策の成果の積上げというところで、それが市民の満足度につながっているという形での分析はしているところです。

高尾委員

分かりました。せっかくこういう主観的な指標を成果指標の中でも多く使っていると思いますので、そういうものと実際の施策がどのように結びついているのか、一喜一憂する必要はないと思いますが、長期的にそういうものが結びついているといったことが言えると、この施策が本当に市民に届いているということが、より具体的に分かるのではないかと思いますのでお聞きしました。

加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

例えば、ごみの指標の下に関連する施策があつて、この配下に事務事業が位置付けられており、それぞれを取り組んでいくことによって、この施策の市民の実感が上がっていくという構成になっていまして、それぞれの事務事業とその施策が関連性を持っているというつくりにはなっているのですが、そのあたりも今後研究してまいりたいと思います。

岩崎委員

3点ほどあります。まず、資料4の2ページ目の資料はとてもよいものだと思います。

二つ目からは意見ですが、資料5に関しまして、指標の評価の多くがcやdになっています。しかし、例えば2-3-2を例に挙げると、教育文化会館・市民館・分館の社会教育振興事業参加者数に関しましては、単純に目標値に達していないということでdとしていると思いますが、原因分析で分かるように明確に事業中止、あるいは定員を半数にするという行政指導をしているわけで、本来的にはNAと表記すべきところではないかと思います。行政指導をして人数をコントロールした場合は、少し評価の仕方を変えた方が良いという意見です。

また、3点目は資料6ですが、先ほど低いと言われた「この1年間に生涯学習したことがあるか」という項目ですが、そもそも生涯学習という言葉の持つイメージが人によって様々であり、身近な人から料理を教えてもらった、などの例もインフォーマルな学習として生涯学習とされることもあり、捉えどころのない概念です。そのため、このような質問を入れると回答者の考える生涯学習というものにバイアスがかかってしまいます。そのため、場合によっては、川崎市の図書館、市民センターなどの生涯学習施設をどの程度利用したことがありますかなどの明確な指標の方が妥当であったりします。

加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

いただいたご意見につきましては、次回以降、指標などを設定する際に、参考とさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

岩崎委員

特に2点目については、今回の評価でご検討いただくわけにはいかないでしょうか。

加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

今の評価の仕方としてこのような考え方をとっておりますので。一方で、新型コロナウイルス感染症等の影響によって実際に参加者数などが減ったけれども、それに対して先ほど事例を示しました様な代替策を講じたものについては、総合的な判断で評価を上げているものもごございます。

岩崎委員

この参加者数というのは行政指導でコントロールしているわけですから、その状況下で対応策を講じて増やさないという話は理屈上、成り立たないと思います。

川崎委員長

この点については、少し私からコメントをさせてください。

新型コロナウイルス感染症を理由に評価法を変えるというのは、実は結構危ないもので、その他にも毎年のように様々な災害や事象が起こっている中、その都度、基準を変えていくと何をやっているのか分からなくなってくるので、ここはやはり客観的な指標で評価をした上で事実を確認して、我々はBだから悪いという話をしているわけではなくて課題を浮き彫りにすることが目的ですので、今回、イベントなどで人数によって評価することの限界をある種明らかにし、こういった事業はやらなくていいかということは次の課題で、今後、何をやるのかというところが政策的対応に行くところだと思いますので、これについてはその都度変えていくというのはかなり危険だと私は思います。それよりも同じ指標、同じ客観的な見方で評価をした上で、主観的に皆さんの感覚というかご専門の視点や市民感覚から評価をいただくのが政策評価の大きな目的、手段になっているのではないかと考えております。

岩崎委員

私も主観的な評価をすべきと言っているのではなく、来館者数などの人数を評価指標としているのにもかかわらず、コロナ禍で行政が来館者数制限などで来館者数を下限に設定している中で「評価できない」とすべきではないかということをおっしゃっているところです。コロナの影響でおそらく減ったであろうといった推測で判断されているところに関しては、評価を変える必要はないと思います。

川崎委員長

この点については、ほぼ全てのコロナの影響と推測される事業については、CやB評価になっておりまして、今回の全体評価でもそうですけれども、CやB評価が出ている事業については、それぞれ状況を確認した上で、8割程度がコロナが原因ということでしたので、それはそれで客観指標として出すべきかと思えます。むしろ隠してしまって評価できない方法を増やしてしまうと何が起こったのかが見えなくなってしまうため、あまり手を加えないで事実をつまびらかにした方がよろしいのではないかと私は考えております。

岩崎委員

分かりました。

米林委員

2点、気づいた点を申し上げさせていただきます。

一つ目は、資料5ですが、原因分析を拝見すると内容のレベル感の差をすごく感じています。「コロナによって下回りました」で終わっているものと、そこからもう一步踏み込んで、さらにどういうところまで課題として見るか、こうやって取り組んでいく必要がありますという、成果分析のレベル感に差があると思っています。コロナの影響で下回ったことまでは大体分かりますので、そこで思考停止になってほしくないと思います。その中でも次はどこが課題なのか、コロナ禍の後をどう目指していくかということが原因分析等ですので、そこまで捉えられている方が、やはり次に取り組んでいかれようとする姿がとても見えますので、そういったところまで目指していただきたいと思います。

二つ目は、資料6を拝見して、私の感想も最初に高尾委員がおっしゃったことと近いかもしれませんが、その結果をどう活用するのかなという点があります。数値として事実は出てきますが、大事なはその解釈だと思っています。例えば伸びたと書かれていても、想定より伸びているのか、思ったより伸びていないのか、その解釈の仕方によっても取りようが違いますし、その数値だけではなく、その一步先の分析まで行っていただきたいなと思います。それはこれからなのかもしれませんが、数値をどう読むかがとても大切なので、今後、しっかりとご議論いただければと思っています。

加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

先ほどの原因分析のところにつきましては、ここでは原因を載せておりますが、この原因に基づいて今後どう取り組んでいくかという部分も各局で検討しております、それについては次回以降の実施計画や事務事業の推進に活かしてまいりたいと考えております。

また、市民アンケートの結果の数値の考え方につきましては、設定した目標を超えたものについて、チャレンジ目標という新たな目標を第3期実施計画で設定させていただいております、取組をさらに伸ばしていくもの、維持していくものといった点も分析しながら次の計画に活かしておりますので、引き続き取り組んでいきたいと思っております。

久野委員

アンケートについて、非常に面白い数字が出ていると思います。例えば「4調査結果の傾向」で、積極的
回答の割合が多い上位5項目が、ごみの分別、広域拠点駅、交通利便性、住みやすさ、安全・安心となっており、積極的
回答の割合の低いものが、生涯学習、市民の意見・要望を伝える機会や手段、地域での活動参加、新しいビジネス
などですが、これを見ると、環境整備はすごく頑張っており、しかしその中に住んでいる人達が自ら積極的に
動いて何か新しいものを起こしていくところが不足していることがきれいに見えていると思います。こういった
ところを担当課が意識してくれるかどうか。ただ数字だけを渡してもそれが分かるかと分からないところ
があると思いますので、そこはやはり企画調整課で少し気づいて、こういったことを総合的にやって
おられるので、部分的ではなくて総合的な観点からアドバイスなどが出来ればと思います。そうでないと
次の段階にいけないため、せっかく川崎市はここまで頑張っているのに、モノではなくて、デザイン
ですね、人間の活動のデザインみたいな、そういうレベル感が今後必要だということかと思
います。ちょっとこの場で話すことではないのですが、せっかくそこまで良い分析をしたものです
から、ぜひ上手に伝えていただくことや、あるいはそういった懇談会を持ってもいいかと、
そのような感じがします。

加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

ぜひ貴重なご意見として参考にさせていただきます。ありがとうございます。

田島委員

私もこのアンケート調査自体が使い方によっては非常に役に立つだろうと思
いましたので、ぜひうまく使っていただきたいと思
います。また、それに関連して、資料5の5ページ目の施策4-9-1「都市イメージの向上とシビックプライドの醸成」の達成度が低く、しかも市のイメージが10.5ポイント低下しているという結果がある反面、アンケート調査では、項目26の「市の魅力」が令和3年度は高くなっているという、調査の違いや調査方法の違いによって、市の魅力の様なものが違う動きをしているということに、まず気がつきました。

そして、先ほどの高尾委員のコメントにもありましたけれども、こういった同じ調査でデータを取って

るものについては、どういう項目にどういう評価をしている人が市の魅力について高く評価しているのかという分析ができるはずですので、個々の施策に対する評価が市政に対する全体の評価をどう変えているのかという分析を視野に入れて、項目を工夫していただけると良いと思います。先ほどの区役所の満足度も、どこに不満を持つと不満度が高くなるのかというようなことを明らかにしていくことは非常に大事かと思いましたが、ぜひご検討をお願いしたいと思います。

加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

先ほどの市の魅力やイメージのところではいいと思いますと、やはりマイナスの印象がもともと根強いところもあったり、公害などそういったところもあると思いますけれども、一方で、スポーツなどの分野では、その魅力の部分によって高く評価されたりすることなどがあると思いますので、同じ土俵のアンケート調査でないところもあり、少し対象が違っていたりしますので、様々な結果が出てくるとは思います、そのあたりはやはりしっかりと分析しながら今後活かしていきたいと思えます。

川崎委員長

おそらく先ほどの生涯学習と一緒に、何を魅力と言っているのか、生涯学習と言っているのかは、それぞれの主体に依存してしまっている、そこが差になっているのだと思います。特にシビックプライドは何をしたら上がるのかが分からないという点が最近の問題ですので、そのあたりは少し切り替えつつ、魅力としてこういうことを考えている、といったことを調査の中で少し明確にできるようにしていくと、もう少し政策評価につながるようになるかと思いました。

三田委員

私から2点ございます。

1点目ですが、資料5の第1期策定時等を下回った成果指標について、今回、C、Dの評価となった施策のうち、約8割がコロナの影響によってC、Dの評価がついてしまったということですが、それでもやはり川崎市の職員の方々が毎日とても頑張っていて進めていただいていると思えます。その一方で、資料3の10ページの施策4-9-1のシビックプライドについては、ずっとC評価ですので、今、川崎委員長がおっしゃったように、やはり根本的にどういったところに取り組みれば良いのかというような課題が残るところです。

2点目ですが、資料6アンケート調査結果の4ページを拝見させていただいたのですが、地域活動がコロナ前から軒並みずっと減ってきているところと、市民参加も少し少ないと思えます。シビックプライドにつながっていく観点を考えると、やはり市民が参画し、様々なことをして地域と連携したりするなど、自分がここに住んでいて協働して色々と動かしている様なその市民参加の認識が共有できるような取組などをする中で、このあたりの意識を上げていくとシビックプライドも上がったりするのかなと思いました。

川崎委員長

ありがとうございます。貴重なコメントをいただけたと思っております。

岩崎委員

資料6の「4 調査結果の傾向」について、社会教育やいわゆる成人教育、地域の学習という観点から見ますと、先ほど三田委員がシビックプライドに関して参画する人が少なく帰属意識が少ないのではないかとご指摘があったことも踏まえ、地域の人達が社会課題や地域課題を意識化して、それを学習するという機会や場が少ないのではないかと推測されることです。この点は、成人学習や社会教

育の領域で積極的に取り組まれてきた部分であるため、このような領域が川崎市としては脆弱なのではないかと思われるところもあり、この点はもう少し分析をし、政策的に検討していてもいいのではないかとと思われるところです。

川崎委員長

ありがとうございます。

委員の皆様からたくさんご意見やアドバイスいただけたと思いますので、これらを踏まえて委員会として総括をしたいと考えてございますので、次の議題で少しそのあたりの議論をいただければと思います。

次の議題「審議結果の総括について」に参ります。こちらは、資料7で事務局にてまとめていただいておりますので、説明をお願いいたします。

事務局

(資料7及び参考資料1の内容に沿って説明)

川崎委員長

ありがとうございます。

ただいまの事務局の説明に対して、ご意見、ご質問をお願いしたいと思います。資料7の16ページから18ページにある総括部分を中心にご議論いただければと思いますので、よろしくをお願いいたします。

高尾委員

この総括評価の最初のところで、先ほどのシビックプライドの話や、中間評価の際にもお伝えしたかと思いますが、民生委員の話など、ずっとあまりよくない指標が幾つかあると思います。第1部会で言うと、民生委員の話や、今回の審議にあった介護人材の不足なども出ています。これがどこまで市の施策で改善できるのかということについて、この先どうするのか、ずっと悪いものを抜本的に見直すのか、それともここは市の努力では少し難しいということなのか、そのあたりはもう少し考えていけたらと思いました。

また一方で、評価としては低いのですが、例えばシルバー人材センターを通じて仕事に就いた高齢者の数やいきいきセンターの利用実績などについては、おそらく高齢者の雇用・就業が進んでいる中で、役割としてそれほど重視されなくなっている、民間のものなど他のもので雇用が継続されているといった、そういうことでC、D評価になったものもあるため、ずっと評価が低いものについて、市でできるものなのか、市の努力ではなかなか難しいことなのか、またはそもそもそれほど意味がなくなっていることなのか、ということを少し見直していく必要があるのではないかと思います。

加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

そのあたりは、市がどこまでできるのか、そういったところの見極めやターゲットという点は、どうしても今後のニーズを見ていかななくてはいけないと思っておりますし、その時代の流れの中で、市がやるべきことなのか、民間などに任せるべきなのかということも今後検討していきたいと思っております。

久野委員

市がどこまでできるかという点で、官民協働というのは、川崎市の場合でも行っているのでしょうか。

加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

はい。

久野委員

そうでしたら、今、民間がやるべきか市がやるべきかということをおっしゃいましたけど、これからはお互いに強いところを持ち寄って連携することが重要であり、官民協働というキーワードを入れると、日常的にそういったことができると思います。

また、「ウィズコロナ・ポストコロナを見据えた今後の的確な対応」のところ、オンラインやライブ配信など新たな手法を取り入れた取組も進められているなど、適切なことが書いてありますが、もう少し強く出してもいいのではないかと思います。Society 5.0やIoT、それからAIとは言いませんが、つまりはバーチャルとリアルが組み合わさったような社会になるということはもう必然ですので、そういう中で例えば先ほどの弱いところ、市民活動や地域活動などですが、そういったこともリアルが一番いいのですが、これからの時代はうまくオンラインを使って、IoTをうまく活用して、DX時代の手法を活用していくなど、これからもコロナがどうなるか分かりませんので、バーチャルで会うといいですか、対面でなくてもこの様にしてコミュニティをつくりながら、色々なところで企画や参加をするという市民活動、自分達自らが取り組めるような、そういう意味での環境を整えていくと良いと思います。そういった活動がどんどん活発になると、あるいは担当課とも連携しながら取り組めると、今までは環境だけだったのが、その中で主体的に市民がどう動くかというところにつながっていき、次の政策評価の際、そのあたりがぐっと上がっていくかと思います。常にみんなが顔を合わせてということはなかなか無理ですし、そういう時代ではなくなっていく可能性もありますので、こういったことを普及していったり、環境をつくるように働きかけたり、そこは官民共同ですが、そういった点を少し意識して書いておくというのも良いかと思いました。

川崎委員長

具体的にどういう書き方をすると良いのか、御意見はありますか。

久野委員

それは川崎市のセンスがあるので。違う自治体で色々書いたことがあって、そうしたら論文調ではなくてもっと分かりやすく書いてほしいなど、そのようなことを言われてしまったので。

川崎委員長

分かりました。書き方については、最後は委員長一任になるかと思いますが、具体的に追加するならということですが、少し御説明させてもらいますと、実はここの最初の二つに書いてあるシビックプライドと町内会・自治会の加入率というのは、おっしゃるようにならずと低い数値でした。シビックプライドについては何をしたいのか分からないというのが一番大きいのですけれども、町内会や自治会については、今、久野委員がおっしゃるように、市でもずっとCやDという低評価のままだということで、考え方を変えていただきました。この委員会の役割は課題を浮き彫りにすることですので、浮き彫りにした上で市に対応いただくということで、おっしゃるように自治会や町内会のみならず、コミュニティというのはSNSを中心に若い人達はオンラインですし、対面だけでなく、様々な媒体でこういった活動ができるようなことを、今、市でも取り組んでいると聞いてございます。そういう意味で、具体的にこうすべきというよりも、むしろ課題をここで強調した上で、ずっとC評価です、このままでいいのですか、ということをはっきりすることが重要であると思います。逆に、ここの最初のところにあるコロナ禍における施策の評価については、むしろ当初これまで何年も同じ基準で評価していますので、AやBが減って、CやDが増えると予測していたのですが、実はそんなに減っていなかった。そういうところが、やはりこのマネジメントですけど、できないところに資源を投入せずにつないで、できるところをしっかりと取り組むといったことがやられていたと思いますの

で、やはりコロナだからここは評価しないとするよりも、むしろ同じ基準でずっとやっておいた方が、問題点を明らかにできますし、何をやるべきかというところ、具体的に何をやるかは我々の範疇ではないと思いますので、課題を明らかにするという意味では、この評価は一定の成果があるのではないかと考えております。そういった意味でこの総括評価を見ていただくと大変ありがたいです。大幅に変える場合は委員長一任となりますので、できるだけ委員会内で変えるべきところは変えるという方向にしたいと考えております。

米林委員

補足的に加筆という点での意見でございます。基本的な構成はこの内容で良いと思います。

一点、3の「効率的・効果的な取組推進に向けた目標値の設定」のところ、加えるとすれば結果の評価という点もあるかと思っています。それは「適切な目標を設定する必要があります。または、結果の評価についても同様です。」という意味で、目標値に達することの意義ともつながるのですが、目標値を下回るときに、それが問題なのか、おおむね達成しているという解釈をするのかによって、その後の取組の考え方が全く変わってきますので、適切な目標値の設定と適正な結果の評価ということも加筆いただいても良いのではと思います。

もう一点が、内容としては含まれていると思いますけれども、4の「より詳細な要因分析」のところ、第2部会の際に田島委員もおっしゃったと記憶していますが、交通の施策などは市全体ではなく、どのエリアなのかという点、要因の分析になるのですが、「なぜ」ということの前に、どこが問題なのか、どこに課題があるのかという焦点を絞ることが必要だと思います。それは世代であったり、エリアだったりということですが、どこに問題点があるかという点も少し加筆いただくと、我々の議論が反映できるのではと思います。

川崎委員長

ありがとうございます。

具体的に何か修正するところがございますでしょうか。微修正であれば委員会で確認いたします。

米林委員

3のところは、最後の文章のところ、「適切な目標値を設定していく必要があります。また、結果の評価についても同様です。」など、何かその目標値設定プラス結果で評価しているという点を加筆してもいいのではというのが案です。

二つ目の4のところに関しましては、私も文言までは今浮かんでいないのですが。

川崎委員長

おそらく意図としては、今、米林委員がおっしゃったようなことは、「なお」以降のところ、詳細なデータ分析や分野横断的な検討を行うために、成果指標をデータベース化して庁内で共有できるような体制整備という部分でカバーできないかなと考えているのですが。

米林委員

そうですね。もしくは一段落目のところで網羅されているのかもしれないのですが。

川崎委員長

少し明確化すべきということであれば、そのあたりは委員長にお任せいただければと思います。

米林委員

なぜだけではなくて、どこというところを少し表現に入れても良いかなというところですよ。

川崎委員長

評価についてはこの委員会での役割なのですが、アクションに求めることなのかなという感じが若干します。評価というと学校の成績のA、B、Cを想像しがちなのですが、良い悪いという話をしているわけではなくて、課題があるのかなのかというところを判定するのが大きな役割になっていまして、おっしゃるようにデータだけでは見えないところがありますので、そのあたりについては、まさに市民感覚やそれぞれの専門の方々に見ていただいて、もちろん市でも自己評価をしていただいて、相互でチェックをし合いながら進行管理をしていくということがこの評価の役割になっていますので、おっしゃるようなことは実はやっているというのが実態でして、特筆して書くかという、ちょっとそのあたりについては事務局と後で相談させていただきます。

岩崎委員

冒頭の2段落目の「一方で」のところなのですが、川崎市の都市型コミュニティの特徴として、住民の地域に対する帰属意識が少ないということが私は大きな課題だと感じているところですよ。なぜ課題かということ、おそらく災害などが起きたときに共助ということを市はおっしゃると思いますが、地域基盤が出来上がっていないところで共助ということはなかなか主張できないと思います。ですので、ここの4行目の「総括評価から連続して評価結果が「C」となっており」の後に、「住民の川崎市の地域課題に対する対等的な活動が少なく、必然的に地域への帰属意識が少ないことを学習活動等で今後意識化していく」というような取組に関する一文を入れていただくと良いのかなと思いました。

つまり、地域に帰属意識がないと今後地域性を維持できなくなり、災害などが起きたときにきっと共助ということは言えなくなると思いますので、学習活動を通じたシビックプライドの醸成や市民の協働的活動の促進など、そういったことに努める必要があるという様な点を入れておいていただきたいと思いました。

川崎委員長

むしろ今おっしゃったような具体的な政策というよりも、ここに課題があることを伝えることが重要だと思います。地域コミュニティの再生の様なところは特筆する必要性があるのかもしれないとは思いますが、それはどうでしょうか。学習など細かい話をしますとキリがないので、大きく何をするかというところだと思えます。

岩崎委員

例えば「評価結果が「C」となっており」のところに1行入れていただくことで十分です。川崎市の問題は、環境整備も十分しており、住民も民度が高いですが、住民が通勤圏として考えているゆえに地域に対する帰属意識が少ないというところに一番大きな課題があると感じているところですよ。それを1行程度で「「C」となっており」の分析に記載していただければと思います。

田島委員

おそらく総括についての最初のこの部分には、評価結果が低い例として、シビックプライドの醸成という施策が挙げられているので、おそらく先ほど岩崎委員がおっしゃられたようなことは、18ページの下から6行目の「今後の社会活動の動向等をしっかり注視し、」の部分ではどうでしょうか。ただ、この部分はウィズコロナ・ポストコロナについての概略ですので、収まりがよくないですかね。

久野委員

いや、ここに入れたらどうでしょうか。

私も先ほどからずっと申し上げましたが、おおよそ皆さん似たようなことを仰っていますので。

地域のコミュニティですとか、やはり最先端のIoTの技術などを使いながらうまくコミュニティをとって積極的に市民活動を、といったようなことを皆さんがおっしゃっているのです。そこまで書くかどうかは別ですが。

川崎委員長

おそらく市役所の問題意識も全く同じです。

久野委員

同じだと思います。そこを少し入れて、担当課にしっかりと伝えていただければと思います。ここが分かっているでも担当課が分かっているといけないので。

川崎委員長

いや、そうではなくて、担当課も分かっている、実際にコミュニティの審議会で、そういった議題で議論されているそうですので、ここで具体的にこうすべきというのは少しやり過ぎですので、むしろそちらの方でご審議いただくというところで、この委員会では、ずっとC評価だという課題としてお知らせをする。他と比べても、やはりずっと同じ課題が続いていますということを指摘するという点で留めています。

久野委員

そうでしたら、そういうことで良いと思います。

岩崎委員

私もそれで結構です。

田島委員

おそらく今のお話を伺っていると、この議事録が大事だという話ですよね。そのため、ここには細かく1つだけ何か目立つように書いて、この総括の中に書くというよりは、総括には書きにくいけれども、こういう問題意識を委員会として共有しているということが、議事録にしっかりと残るはずですので、それを庁内で共有してくださいという、そういうまとめで良いのではないのでしょうか。

川崎委員長

ありがとうございます。

おっしゃるように問題意識は市役所も持っていますので、ここに書くのは担当課としては少しやりにくいので、まさに企画調整課の様な部署が横串を刺して横断的にやらなくてはいけないようなことについては、ここで明確にした方がいいかなと思いますけれども。シビックプライドではないですが、地域のことなど皆様から御意見がありましたのでどうしようかと考えていたのですが、よろしければこのままということで、議事録で代替をいただければと思います。

(異議なし)

久野委員

もう少しだけよろしいですか。議事録に書くというと、書いて終わってしまうという、日本全体がそういう傾向が非常にあって、それにじりじりしています。川崎市を見させていただいていると、できるかもしれないと思うので、今回、議事録に書くということで良いですが、実際にどうやって変革するのかという、そのエネルギーにつなげてほしいと思います。そうでないと、きれいにまとめて出来ましたが、それで変わったかというと全然変わらない、10年も20年も変わらない。これを脱皮しないといけないので、その脱皮の中心軸は川崎市であってくださいということです。

星川委員

先ほどからの地域コミュニティの話に触れて、町内会の加入率について、総括でも町内会・自治会加入率を除くというところで、これが下がっていますということを言いたいのですが、町内会の場合、実態は、加入者数はほとんど変わっていないです。ただ、分母に当たる世帯数が増えている、1軒だったところがアパートを建てて10世帯になるという、そういった状況で母数が増えています。ですから、加入率でみると、一見するとどんどん町内会を辞めていく人が増えて、下がっているという印象を抱きがちなのですが、入っている方の動きはそれほどないのです。多少の一桁ぐらいの増減なのです。それにもかかわらず、加入率が低いというと、それで入らなくていいのだとなってしまうか。そうではなくて、2世帯住宅だって1軒の家で2世帯とも加入しているところなんてないわけ。親子で入っていて、同じ資料が回ってきますので。ですが、それだけでも加入率は50%になってしまうのです。ですから、加入率という言い方で低くなっているということは、本当に困るといいますか、町内会が崩壊するような印象を受けるのですが、少し違うのではないかなと思います。入っている方が悪いような感じというか、時代に合っていないような。決してそうではなくて、単純に単身世帯が増えている、そういうところから母数が増えて、加入率が下がっているのです。そのため、そういう見方をしてくださる方がいけば良いのですが、おそらく多くの市民はどんどん辞めている、退会している、魅力がないといった、そういう印象を抱きかねないため、あまり下がっているということを表記しないような方法が取れないかなと思います。地域コミュニティが皆さん大事だと言っておりますが、これが下がっていることを要因にしているようなところがあるかと思います。ですが、実態は、加入者数は多くは変わっていないのです。世帯数はものすごい勢いで確実に増えておりますが。

川崎委員長

星川委員のおっしゃることは、このコミュニティに関しては課題がないという理解ですか。

星川委員

加入率を指標にするのは少しよくないということです。

川崎委員長

指標として適切ではないということでしょうか。

星川委員

そうですね。

川崎委員長

それはこの委員会で議論すべきことですが、コミュニティ施策の評価の際にそういったことを指摘しない

のは良くないのですが。

米林委員

おっしゃっている意味は、ここの「町内会、自治会加入率を除く成果指標について」という部分を除いて、例えば「僅かながら実績値が上がっているものが多いもの」とするなど、この項目を際立たせると、星川委員がおっしゃったような誤認をされてしまうのではないかという指摘かと思います。

田島委員

そこを消せばいいのではないのでしょうか。

岩崎委員

そうですね。「第1期実施計画の総括評価」につなげてはいかがでしょうか。

川崎委員長

分かりました。ここは指標ではなくて施策の課題ですので、指標について上がった、下がったという話ではなくて、施策の評価という観点で、C評価がずっと続いているということにしましょう。

岩崎委員

「C評価」であることを特出しするとあまりに否定的な印象を強調しないでしょうか。

川崎委員長

いや、やはり課題を明確にしないと、ぼかすのは簡単ですけども、全部ぼかすと課題がなくなってしまうので、ここに課題がないというのであれば書かなくていいんですけども、課題があるから対応してくださいということを言わないといけないと思います。

久野委員

町内会・自治会加入率のところだけカットするということですね。

川崎委員長

指標のことではなくて施策のことを言えばいいんですね。

加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

確認としては、「連携・仕組みづくりについては、第1期実施計画の総括評価から連続して評価結果がCとなっており」という形で、ここの町内会のところは削除する形でよろしいでしょうか。

川崎委員長

はい。個々の指標についてのコメントではなく、施策の評価ということにしましょう。

加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

はい。ありがとうございます。

田島委員

もう一点だけ。

(3)の先ほどの目標値の設定ですけれども、今言われたような地域の実情であるという、あるいはシビックプライドのところについては、当初のときよりも実情値が下がってしまっているため、どんどん目標と乖離していくという問題があると思います。それを踏まえて、この最後の「精査した上で、」の後に、「地域の実情を踏まえた適切な目標値を設定していく必要があります」というように追加いただけたらと思います。

川崎委員長

それは全然問題ないと思います。むしろ明確になったと思います。ありがとうございます。

他にございますでしょうか。

それでは、議題2に移りたいと思います。

念のための確認ですが、微修正については委員会の中で今ご議論いただいたところで確定させていただいて、大幅な修正は今のところ私はないと認識していますが、もしあるようでしたら委員長一任でよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、議題2「その他」について、簡潔に事務局から説明をお願いいたします。

加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

資料8をご覧くださいと思います。

企画調整課では、総合計画とは別に「第2期川崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を所管しておりまして、本戦略につきましては総合計画の実施計画の一部と同一の内容としていることから、先ほどご報告いたしました総合計画の施策評価等を本戦略の評価として活用させていただいております。そのため、それについてご説明をさせていただきます。

1ページ目、左の2「本市における経過」でございますけれども、平成28年に策定した「第1期川崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間が終了することに伴いまして、国の戦略を勘案しながら、令和2年3月に「第2期総合戦略」を策定いたしました。資料右側の総合計画との「関係性イメージ」をご覧くださいと思いますが、図のとおり、本戦略の「具体的施策」は、総合計画の施策（3層）と一致しており、先ほどご審議いただきました総合計画における「市民の実感指標」と「成果指標」で構成しております。つきましては、本日ご審議いただいた総合計画に関する政策評価審査委員会での審議結果を活用させていただきまして、本戦略の評価とさせていただく取扱いについてお願いしたいと思います。

なお、2年前も同様に、第1期総合戦略についても、総合計画における政策評価審査委員会での審議結果を活用させていただいた経緯がございますので、今回につきましても同じ扱いをさせていただければと思います。よろしくをお願いいたします。

川崎委員長

ありがとうございます。

こちらについて、何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。

別にもう一つ委員会を立ち上げる必要性はないということですので、合理的に一つの評価で進めていくということでございます。

特にないようでしたら、これについては了承ということにさせていただきます。

その他、ございますでしょうか。

加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

参考資料2「第2期実施計画総括評価に係る委員会スケジュール」をご覧いただきたいと思います。

はじめに、本日取りまとめでいただきました委員会意見の取扱いにつきましては、今後、市長に提出するとともに、全施策評価シートと合わせて8月末に議会へ報告させていただきます。

また、委員会からの意見を踏まえた市の対応方針を策定し、来年度予算案や主な組織改正公表後の3月頃を目途に公表することとしておりまして、各所管局としっかりと共有して取組の改善に活用してまいりたいと思っております。公表の際は、委員の皆様にもご報告させていただきたいと思っております。

次に、委員の任期についてでございますけれども、委員の皆様におかれましては、本年11月末が任期となっております。こうしてご審議いただく会議は予定をしておりますが、残りの任期中に政策評価に関する課題等が生じた場合には、急遽、委員の皆様方にご意見等を伺う場面もあるかと思っておりますので、その際はご協力をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

川崎委員長

ありがとうございました。

それでは、本日の議事は以上となりますので、進行を事務局にお返しいたします。

加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

長時間にわたり御審議いただき、ありがとうございました。

それでは、別の公務で席を外しておりましたが、閉会に当たりまして、総務企画局長の中川からご挨拶をさせていただきます。よろしくお願いたします。

中川総務企画局長

遅れての参加で申し訳ございません。総務企画局長の中川でございます。よろしくお願いたします。

本日は、ご多用の中、また大変暑い中、本委員会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

本日の委員会をもちまして、第2期実施計画の総括評価における全ての審議が終了ということでございます。大変熱心なご議論をいただきまして、ありがとうございました。

第2期実施計画の外部評価につきましては、令和元年12月から始まりまして、本日を含め、部会6回、委員会7回開催させていただいたと伺っております。部会では大変ボリュームのある資料を短い期間でご確認いただき、妥当性や改善についてご審議いただきまして、また委員会では市の取組全体に関して総括をいただきまして、部会・委員会を通して、個々の施策の方向性や評価制度全体に対する数多くのご意見をいただいたこと、心から感謝を申し上げます。

また、先ほど事務局からご説明がありました委員の任期でございますが、11月末が任期ということで、もし、またご協力いただくことがございましたら、お願いをさせていただく形となりますが、おそらくこういう形は本日が最後かもしれませんので、改めまして、重ねて御礼申し上げます。

この間、皆様からいただきました貴重なご意見、ご提案を踏まえまして、今後、対応方針を検討し、取組の改善を行いながら、引き続き第3期実施計画を着実に推進してまいりたいと思っておりますので、引き続き川崎市のことを応援していただければと思います。本日はどうもありがとうございました。

加島総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

本日は以上でございます。ありがとうございました。